

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
家庭	家庭基礎	2	1年 普通科	必修	家庭基礎 気づく力 築く未来 (実教出版)	

学習目標	これからの人生や自分らしい生き方と家族、子どもや高齢者、社会とのかかわり、衣食住について、基礎的・基本的な知識や技術を習得する。消費行動や経済的に自立することを学び、持続可能な社会を作る暮らしの担い手として、家庭や地域の課題などを解決する力を付けるとともに、生活の向上を目指す。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 人生や生き方・家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境などの基本的なことについて理解しているとともに、それらに係わる技術を身につけている。
	「思考・判断・表現」 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策の構想を行うと共に、実践したものを評価改善できる。また、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
	「主体的に学習に取り組む態度」 よりよい社会を築くよう、課題の解決に主体的に取り組んでいる。また、取り組んだ内容を振り返り、課題を改善している。地域社会に参画するとともに、自分や家庭、地域の生活の向上を図るための実践力がある。
評価の方法	「知識・技能」 各単元の観点・基準をふまえ、定期考査における基本問題や実習・実技で評価する。
	「思考・判断・表現」 各単元の観点・基準をふまえ、定期考査における基本問題や実習・実技で評価する。
	「主体的に学習に取り組む態度」 各単元の観点・基準をふまえ、課題の解決に主体的に取り組む、振り返って改善などができているかで評価する。

学期	学習計画および内容
1 学期	第1章これからの人生について考える…健康で充実した生活に何が必要であるか考え、目標に向けて一歩踏み出せるようになる。生涯発達の観点からライフステージの特徴と課題を理解する。 第2章自分らしい生き方と家族…家族・家庭をめぐり社会環境が変化する中で、自立した社会人になるため、どうすれば家族や地域、社会と協力・協働して、豊かな家庭生活や地域社会を創造していくことができるか考える。日本だけではなく、世界の結婚事情について調べ、理解する。 第3章子どもとかかわる…子どもの育つ力を理解するとともに、親となったとき、あるいは地域や社会の一員として、どのように子どもたちと関わり、協力・協働して子どもを育てていくか考え、理解する。 ・学校家庭クラブ活動について…学校家庭クラブ活動の始まりと4つの柱について理解する。「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」の学習の進め方について、理解する。 期末考査
2 学期	第4章高齢者とかかわる…高齢社会の現状と課題について理解する。高齢者の心身の変化や生活について理解し、高齢社会を支える仕組みやこれからの介護と課題について理解し考える。 第5章社会と関わる…私たちが社会で支え合う仕組みを学び、社会の一員としての役割やボランティア活動について理解する。 第7章衣生活を作る…人と衣服のかかわりについて理解する。衣服の素材について理解し、衣服の手入れの方法を理解する。また、資源として活用できるような科学的視点に立って考え、各ライフステージにおいて健康で快適に装うだけではなく、様々な立場の人が安全で豊かであること、さらには資源や環境の持続性など地球の未来を視野に入れて、衣生活文化を創造できる力を身につける。 実技実習：基礎縫い、エプロン制作…手縫いの基礎を学ぶとともに、作品を制作することによって、技術の習得を確認する。 第6章食生活をつくる…日本の食文化や特徴について理解する。各栄養素や食品の安全性について理解し、科学的な理解を基に、安全でよりよい食生活とは何かについて考える。 実習実技：調理実習…調理に適した材料の切り方や基本的な調理方法を知る。 期末考査
3 学期	第8章住生活を作る…日本の生活様式と住まいについて理解する。健康に配慮した快適な室内環境について理解し考える。 第9章消費行動を考える…自立した消費者として適切に意志決定を行い、生涯を見通して経済生活をマネジメントする力を身につけるとともに、どうすれば地域や社会と協力・協働しながら持続可能なライフスタイルを実現できるか考える。 第10章経済的に自立する…家計と経済のかかわりについて理解し、現代の家計の傾向について知る。人生設計とお金のかかわりを理解すると共に、リスク管理や資産形成について理解し、実践する力をつける。 ホームプロジェクトの実践 期末考査

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	実習費として年間2,000円必要。
---------------------------	-------------------

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
家庭	家庭総合	2	2年 情報ビジネス科 システム工学科	必履修	家庭総合 (実教出版)	

学習目標	これからの人生や自分らしい生き方と家族、高齢者、衣生活につて、基礎的・基本的な知識や技術を習得する。なりたい自分を見つける手がかりに気づき、理想の家庭を築くために、暮らしの担い手として、家庭や地域の課題などを解決する力を付けるとともに、生活の向上を目指す。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 生活を営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境などの基本的なことについて理解しているとともに、それらに係わる技術を身につけている。
	「思考・判断・表現」 生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし課題を設定、解決策の構想を行い、実践したものを評価改善ができる。また、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
	「主体的に学習に取り組む態度」 様々な人々と協働し、よりよい社会を築くよう、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分自身や家庭、地域の生活の向上を図るための実践力がある。
評価の方法	「知識・技能」 各単元の観点・基準をふまえ、定期考査における基本問題や実習・実技で評価する。
	「思考・判断・表現」 各単元の観点・基準をふまえ、定期考査における基本問題や実習・実技で評価する。
	「主体的に学習に取り組む態度」 各単元の観点・基準をふまえ、課題の解決に主体的に取り組む、振り返って改善などができているかで評価する。

学期	学習計画および内容
1 学期	第1章これからの人生について考える…健康で充実した生活に何が必要であるか考え、目標に向けて一歩踏み出せるようになる。生涯発達の観点からライフステージの特徴と課題を理解する。 第2章自分らしい生き方と家族…家族・家庭をめぐり社会環境が変化する中で、自立した社会人になるため、どうすれば家族や地域、社会と協力・協働して、豊かな家庭生活や地域社会を創造していくことができるか考える。日本だけでなく、世界の結婚事情について調べ、理解する。 実習実技…人生すごろくの制作 ・学校家庭クラブ活動について…学校家庭クラブ活動の始まりと4つの柱について理解する。「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」の学習の進め方について、理解する。 期末考査
2 学期	第7章衣生活を作る…人と衣服のかかわりについて理解する。衣服の素材について理解し、衣服の手入れの方法を理解する。また、資源として活用できるような科学的視点に立って考え、各ライフステージにおいて健康で快適に装うだけではなく、様々な立場の人が安全で豊かであること、さらには資源や環境の持続性など地球の未来を視野に入れて、衣生活文化を創造できる力を身につける。 実技実習・基礎縫い、エプロンの制作…手縫いの基礎を学ぶとともに、作品を制作することによって、技術の習得を確認する。ミシンの使い方について理解する。ポケットの機能とデザインや使いやすさについて考える。 期末考査
3 学期	第4章高齢者とかかわる…高齢社会の現状と課題について理解する。高齢者の心身の変化や生活について理解し、高齢社会を支える仕組みやこれからの介護と課題について理解し考える。 実習実技…高齢者体験 期末考査

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	実習費として年間3000円必要。 教科書は、3年次にも使用する。
---------------------------	-------------------------------------

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
家庭	家庭総合	2	3年 情報ビジネス科 システム工学科	必履修	家庭総合 自立・共生・創造 (実教出版)	

学習目標	食事と栄養、調理の基礎、住生活の変遷と住居の機能、経済生活の営み方や持続可能な消費生活・環境など、生涯に関わるであろう事柄について、基礎的・基本的な知識や技術を習得する。また、持続可能な社会を作る暮らしの担い手として、家庭や地域の課題などを解決する力を付けるとともに、生活の向上を目指す。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 生活を営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境などの基本的なことについて理解しているとともに、それらに係わる技術を身につけている。
	「思考・判断・表現」 生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして題を設定、解決策の構想を行い、実践したものを評価改善できる。また、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	「主体的に学習に取り組む態度」 様々な人々と協働し、よりよい社会を築くよう、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の向上を図るための実践力がある。
評価の方法	「知識・技能」 各単元の観点・基準をふまえ、定期考査における基本問題や実習・実技で評価する。
	「思考・判断・表現」 各単元の観点・基準をふまえ、定期考査における基本問題や実習・実技で評価する。
	「主体的に学習に取り組む態度」 各単元の観点・基準をふまえ、課題の解決に主体的に取り組む、振り返って改善などができているかで評価する。

学期	学習計画および内容
1 学期	2年次の振り返り 第5章社会とかかわる…福祉について理解し、私たちが社会で支え合う仕組みを学び、協力・協働の視点から、これからの社会の仕組みはどのようにしていけばよいか考える。社会の一員としての役割について理解し、どのようなボランティア活動ができるか考える。 第6章食生活をつくる…日本の食文化や特徴について理解する。各栄養素や食品の安全性について理解し、科学的な理解を基に、安全でよりよい食生活とは何かについて考える。 実習実技：調理実習…調理に適した材料の切り方や基本的な調理方法を知る。 期末考査
2 学期	第8章住生活を作る…日本の生活様式と住まいについて理解する。健康に配慮した快適な室内環境について理解し考える。 実習実技：家の設計…平面記号について理解し、将来家族ですむことを設定し、快適にすむことができる家を平面図で表す。 第9章消費行動を考える…自立した消費者として適切に意志決定を行い、生涯を見通して経済生活をマネジメントする力を身に付けるとともに、どうすれば地域や社会と協力・協働しながら持続可能なライフスタイルを実現できるか考える。
3 学期	第10章経済的に自立する…家計と経済のかかわりについて理解し、現代の家計の傾向について知る。人生設計とお金のかかわりを理解すると共に、リスク管理や資産形成について理解し、実践する力をつける。 ホームプロジェクトの実践

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	実習費として年間3000円必要。 2年次に使用していた教科書を継続使用
---------------------------	--

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
家庭	生活教養	3	3年 普通科	選択群	なし	

学習目標	1年次に学習した家庭基礎をベースに、衣食住について学び、学習を重ねる。また、冠婚葬祭時のマナーや和服について学び、日本の伝統文化についての知識を深める。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 衣食住、冠婚葬祭のマナー、日本の伝統文化について理解している。
	「思考・判断・表現」 衣食住、冠婚葬祭のマナー、日本の伝統文化について理解したうえで、問題や課題を設定し、解決策の構想を行うと共に、実践したものを評価改善できる。また、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	「主体的に学習に取り組む態度」 課題の解決に主体的に取り組んでいる。また、取り組んだ内容を振り返り、課題を改善している。自分や家庭生活の向上を図るための実践力がある。
評価の方法	「知識・技能」 各単元の観点・基準をふまえ、定期考査における基本問題や実習・実技で評価する。
	「思考・判断・表現」 各単元の観点・基準をふまえ、定期考査における基本問題や実習・実技で評価する。
	「主体的に学習に取り組む態度」 各単元の観点・基準をふまえ、課題の解決に主体的に取り組む、振り返って改善などができているかで評価する。

学期	学習計画および内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・冠婚葬祭のマナーについて学ぶ。 ・着物の種類、各部の名称、伝統的な紋様、帯の種類について学び、着物の着付けやたたみ方について学習し、その技術を習得する。 ・染色の技法を学び、作品制作で理解を深める。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・各栄養素について理解する。また、野菜の切り方、調理方法について学習し、実習実践により技術を習得する。 期末考査
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・指文字を始め、手話について学ぶ。 ・住居の変遷や世界の住居について学習する。間取り図を設計することで、学習をより深める。 ・世界の食文化について学び、実習実践することで、より理解を深める。 期末考査
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・献立の立て方について学習し、実習実践によって理解を深め調理技術を確認する。 ・自由献立を考え、調理実習を行う。

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	実習費として年間5000円必要。
---------------------------	------------------

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
家庭	服飾手芸	2	3年 普通科	選択群	なし	

学習目標	刺し子、刺繍、パッチワーク、編み物などの基本的な知識を習得し、作品を完成させる。また、物を作ることの楽しさを学ぶ。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 基本的な技術を身につけている。
	「思考・判断・表現」 基本的な技術を応用し、個性を表現することができる。
	「主体的に学習に取り組む態度」 計画的に完成に向けて作業を実施できる。また、自己の作業を振り返り、見つめ直すことができる。
評価の方法	「知識・技能」 各作品の基本的な技術を理解し習得されているかで評価する。
	「思考・判断・表現」 各作品の技術を習得した上で、オリジナリティーが表現できているかで評価する。
	「主体的に学習に取り組む態度」 進捗表に則って作業を進め、作業を振り返ることで学習を深めることができているか、振り返りシートで評価する。

学期	学習計画および内容
1 学期	・刺し子の布巾を作る。 ・ハンカチに刺繍をする。
2 学期	・パッチワークのポーチを作る。 ・かぎ針編みのカバンを作る。
3 学期	・ステンシルのカバンを作る。

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	実習費として年間5000円必要。
---------------------------	------------------